発掘ニュース

第 43 号
平成 6 年 5 月 14 日
発行 財団法人いわき市教育文化事業団
TEL 0246 (29) 0391

縄文時代の玉手箱

――貝塚からわかる縄文人のくらし――

貝塚とは、食料として採った貝の不要な貝がらなどを捨てた場所です。貝がらのほかにも動物の角や骨、またそれらを利用して作られた道具（釣針・銛（もり）など）、土器や石器などいろいろなものが見つかります。しかし、手厚く葬られた人骨も発見され、単なるごみ捨て場ではなかったようです。

通常、土は酸性なので貝がらや動物の骨などは残りません。ところが大量に貝がらが捨てられると、貝のおもな成分であるカルシウムの一部が溶けだし、土がアルカリ性に変わり、貝がら自身は腐らないで残ります。同様に、動物の角や骨などを利用して作られた当時の道具も残ることになります。

このように貝塚は、当時の人々の生活を知るために多くの資料を提供してくれます。例えば、貝がらや動物の骨の種類を調べれば、何を食べたのかがわかりますし、周辺の環境や気候についても推測することができます。また道具を調べることにより、どのように食べ物をとったのかがわかります。すなわち、狩りや魚とりや植物採集など自然と共存して、四季折り折りの生活を送っていた、縄文人の生活のあとを知ることができるわけです。

縄文時代貝塚の調査は、調べれば調べるほど多くのことがわかるので、研究者にとっては縄文人が残してくれたタイムカプセルとして非常に魅力のある遺跡の一つなのです。

とじておきましょう

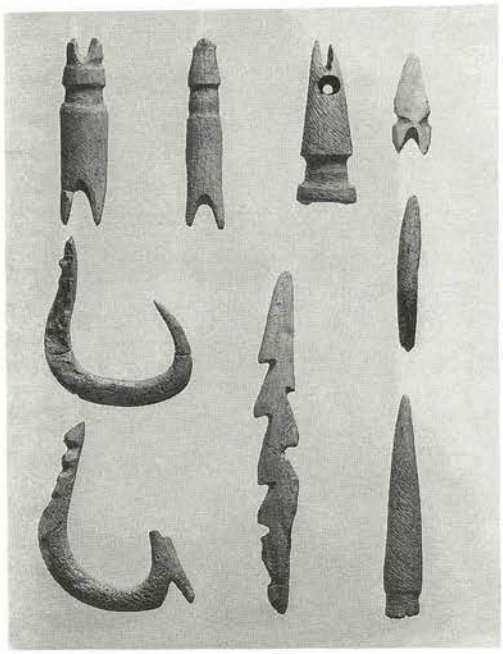
春－山菜とりと潮干狩り

野山にはワラビ・ゼンマイ・フキなどの山菜やタラノキなどの植物が芽を出し、新鮮な味にありつける。海辺ではハマグリやアサリなどの貝類の採取がさかんである。

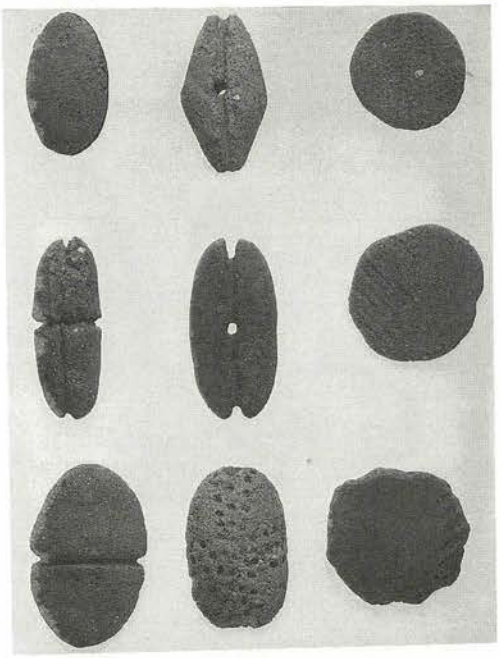
1シーズンに捨てられたカキ貝

夏－海での魚とり

夏は魚とりが盛んな季節である。貝塚からもマダイ・スズキ・カツオなどの骨が多く見つかる。丸木舟をあやつり、釣針や銛（もり）を使ったり、網を使ったりして漁をしていた。



シカの角で作った釣針と銛

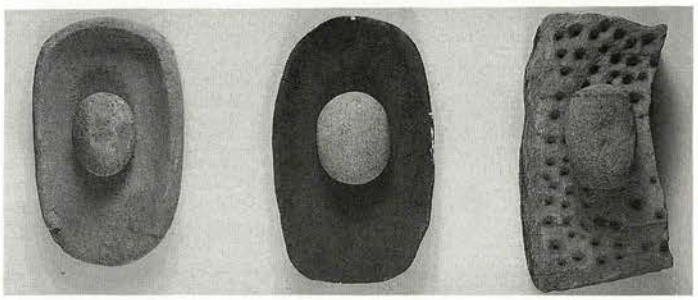


いろいろな形の網漁の重り

秋－木の実の採集と川での魚とり

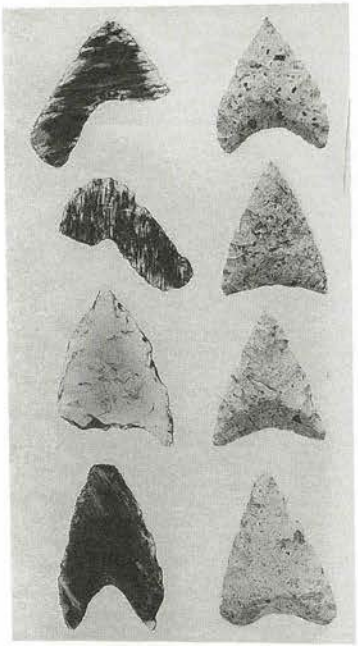
森の中ではトチの実やシイの実、クリやクルミがたくさん実をつける。これらは、保存することができ、縄文人のもっとも重要な食料であった。大量のサケが川を上ってくる。干物（ひもの）や燻製（くんせい）にされた冬の大切な食料となった。

トチの実やシイの実などのドングリ類をすりつぶす石皿とすり石



冬－狩り

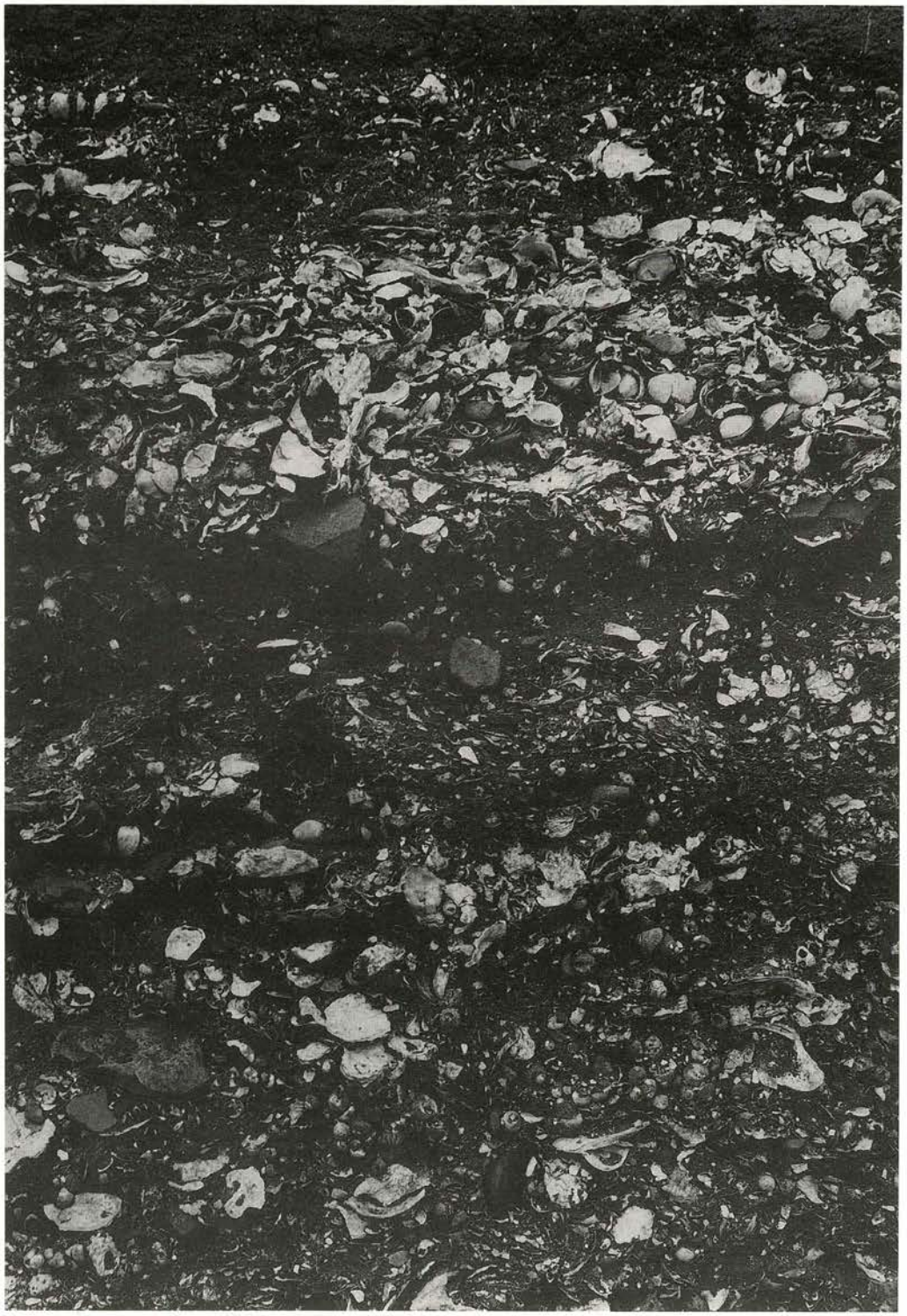
イノシシやシカなどの動物の肉は、秋から冬にかけて脂（あぶら）がのっていてうまい。石のやじりをつけた弓矢を使ったり、落とし穴をつくったりして狩りをした。狩りにはイヌが猟犬として使われていた。



いろいろな形のやじり

縄文カレンダー

相子島貝塚の貝の堆積のようす



とじておきましょう